

2023年5月30日

各位

会社名 株式会社ピクルスホールディングス
代表者名 代表取締役社長 影山 直司
(コード番号 2935 東証プライム市場)
問合せ先 常務取締役経理財務部長 三品 徹
(TEL. 04-2931-0777)

上場維持基準への適合に向けた計画

当社は、2023年2月末時点において、プライム市場の上場維持基準に適合しない状態となりました。下記のとおり、上場維持基準への適合に向けた計画を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況および計画期間

当社の2023年2末日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、下表のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準に適合していません。当社は、流通株式時価総額に関して、上場維持基準に適合するため、次のとおり各種取組を進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の状況	11,541	82,831	95.5	64.4
上場維持基準	800	20,000	100	35
適合状況	適合	適合	不適合	適合
計画期間	—	—	2026年2月末	—

※当社の適合状況は、東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 取組の基本方針、課題及び取組内容

(1) 基本方針

当社は、2026年2月期を最終年度とする中期経営目標の達成に向けた戦略の実行や、IR活動の強化などにより、株価を向上させることで流通株式時価総額を増加させることを基本方針といたします。また、流通株式数は上場維持基準を超えているものの、流通株式時価総額の向上のために更なる流通株式数の増加を図ることも検討いたします。

(2) 課題及び取組内容

「流通株式時価総額」の構成要素は、「株価」及び「流通株式数」であります。当社は、上場維持基準を超える流通株式数を確保していることから、上場維持基準に抵触している主たる要因は株価にあると考えております。

当社は、プライム市場の上場維持基準である流通株式時価総額100億円以上に適合するため、次の事項に取り組みます。

- ① 中期経営目標達成に向けた取り組み
 - ② IR活動の充実
 - ③ サステナビリティ活動の充実
 - ④ 株主還元強化
 - ⑤ 流通株式数の増加
- ①から⑤までの具体的な内容は以下のとおりとなります。

① 中期経営目標達成に向けた取り組み

食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症による制限の緩和は進んでおりますが、原材料・エネルギー価格の高騰が続くなど、引き続き厳しい経営環境が続いております。加えて、少子高齢化などの影響等から市場規模は大きな成長が見込めないなか、消費者の安全・安心への関心は高い状況が続くと考えられ、品質管理の取り組み強化が求められております。

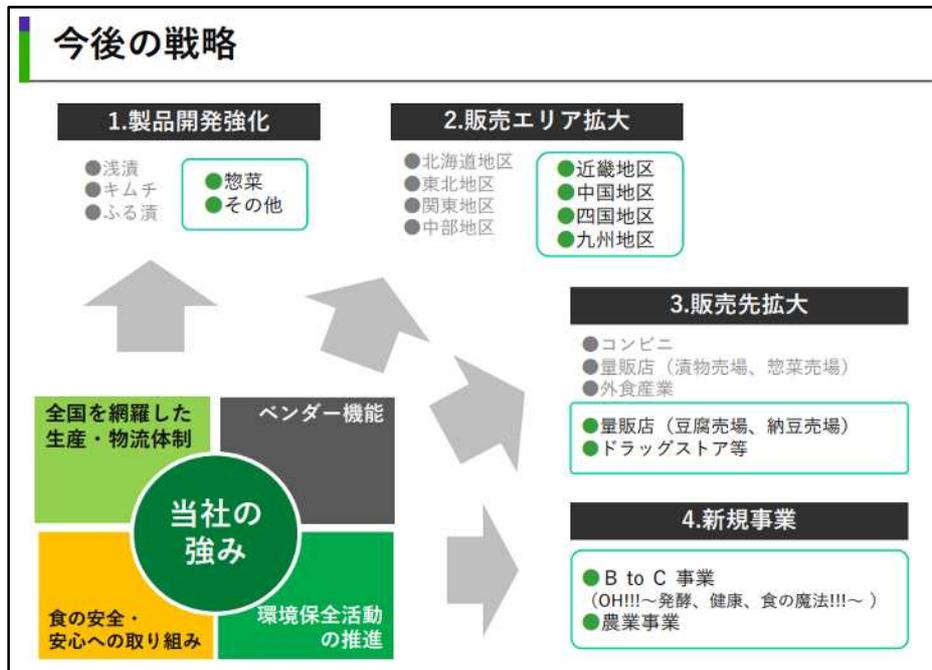
このような状況のもと、当社グループの強みを活かし、「製品開発強化」「販売エリア拡大」「販売先拡大」「新規事業」の4つの戦略や、「生産面等の取り組み」を推進し、2024年2月期業績予想及び2026年2月期中期経営目標を達成いたします。

なお、2024年2月期業績予想及び2026年2月期経営目標は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2023年2月期	2024年2月期予想	2026年2月期目標
売上高	41,052	42,200	43,000
営業利益	1,538	1,620	1,800
経常利益	1,650	1,755	1,930
親会社株主に帰属する当期純利益	1,138	1,150	1,230

【今後の戦略】



・製品開発強化

コロナ禍におけるライフスタイルの変化は今後も継続すると考えており、その変化に対応した製品開発が今後必要になります。例えば、減塩や機能性表示食品など健康志向の製品、おつまみやおかずになるような製品の開発を今まで以上に進めてまいります。また、浅漬、キムチ、惣菜などの既存製品に加えて、新しい分野として、冷凍食品やロングライフ惣菜などの製品開発に取り組みます。

・販売エリア拡大

当社グループは、全国を網羅した生産・物流体制を構築しています。このネットワークを活用して、全国の量販店に同一の浅漬、キムチ、惣菜を提供するという営業活動を進めています。特に、販売エリアの拡大については、株式会社ピクルスコーポレーション西日本の佐賀工場や株式会社手柄食品を活かし、近畿、中国、四国、九州の西日本エリアへの販売を強化してまいります。

・生産面等の取り組み

上記の他、野菜調達の見直し（地域毎の調達等）、不採算アイテムの見直し及びアイテムの集約化、容器の見直し（カップから袋）、生産の機械化・省人化、グループ内の物流（在庫管理・仕分）・事務処理（受注処理、経費処理等）の効率化、製造技術（消費期限又は賞味期限延長）の研究などに取り組み、業績改善に取り組んでまいります。

詳しくは、下記の「2023年2月期決算説明会」資料をご参照ください。

<https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS93462/49edb4c0/308f/4f54/85fc/51f511752e21/20230421191555885s.pdf>

② I R活動の充実

当社は、株主や投資家へのI R活動を積極的に推進するために、広報・I R室を設置しています。タイムリーな情報開示と利便性向上を図るため、当社ホームページ内にI R情報を掲載するページを作成し、適時開示情報や決算情報、株主通信等を掲載しております。機関投資家・アナリストについては、決算説明会などを通じて、個人の株主・投資家については、個人投資家向け会社説明会やアンケートなどを通じて対話を行っております。

今後は、当社の市場認知度を向上させるため、決算説明会に関する情報開示やI R資料の英文開示の充実、個人投資家向け会社説明会の継続開催などを通じて、より多くの投資家の方に当社のことを知っていただく取り組みを進めてまいります。

③ サステナビリティ活動の充実

当社は、環境問題や社会問題など、様々な課題の解決が今後の当社の成長及び持続可能な社会の実現に必要な不可欠であると認識しており、その実現のためにSDGsへの取り組みが非常に重要であると考えております。取り組みを推進していくにあたり、担当取締役を委員長とし、幅広い部門から選出された従業員で組織された「サステナビリティ委員会」を設置しています。そして、委員会の傘下に「環境」、「安全・安心」、「従業員」の3つの分科会を設置し、活動を行っております。

【サステナビリティ推進体制】



この体制のもと、SDGsへの取り組みをはじめサステナビリティに関わる重要な方針や目標の策定などを行っており、この取り組みを継続してまいります。

詳しくは、下記のページをご参照ください。

- ・当社ホームページのサステナビリティページ

<https://www.pickles-hd.co.jp/sustainability/>

- ・当社ホームページに掲載されているESGレポート

<https://www.pickles-hd.co.jp/ir/library/irreports/>

④ 株主還元の強化

・配当政策

利益配分につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続的に実施していくことを基本方針としています。

2023年2月期は、普通配当20円に記念配当2円を実施することで株主様へ配当による利益還元を実施しております。今後も、業績動向等を勘案し、引き続き配当による株主様への利益還元の充実を検討してまいります。

・自己株式の取得

当社では、経営環境等を勘案し、必要に応じて自己株式の取得を行うことで、株主還元及び資本効率の向上を図っております。2022年12月27日開催の取締役会において「自己株式取得に係る事項」を決議し、自己株式の取得を進めておりますが、今後も経営環境の変化に応じた機動的な株主還元策として、実施を検討してまいります。

⑤ 流通株式数の増加

流通株式数の増加には、個人株主の増加が必要と考えております。個人投資家向け会社説明会の継続実施、安定配当の実施、当社従業員持株会の活性化など、個人株主の増加に資する施策を検討してまいります。また、事業法人等に区分される株主に対しては、当社との取引状況及び関係性を鑑み、必要に応じて保有する当社株式の一部売却を促す等によって流通株式数の増加を図ることを検討してまいります。但し、株式市場への大量放出は株価下落の原因になり得ることから、市場の動向に注視しながら有効な方法を検討してまいります。

以上